

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC News No. 94を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(9)

木下 清隆

■編集後記

■トピックス

◇PVC News No. 94を発行しました

塩化ビニル環境対策協議会

9月11日に塩化ビニル環境対策協議会(JPEC)は[PVC News No.94](#)を発行しました。No. 94号の構成は以下の通りです。

◎トップニュース

(株)タケエイのタイルカーペット・リサイクル事業、始動

一回転ローターで繊維層を切削分離。塩ビ、繊維、ダストまで丸ごとリサイクルー

◎シリーズインタビュー/さきがけびとにきく

モノづくりに魅せられて

「作りたい、作りたいと一心に念じると

アドレナリンがたくさん出てくるのかもしれないね」

プラスチック造形作家 当銀 美奈子 氏

◎リサイクルの現場から

塩ビ壁紙廃材小口回収システム、間もなく稼働

ー広域認定制度の導入で、小口廃棄物の回収・リサイクルを促進／日本壁装協会ー

◎インフォメーション1

「塩ビ管・継手の普及・啓発活動」、平成27年度の取り組みスタート

ー3カ年計画の最終年度。自治体訪問は27カ所、

塩ビ管への理解促進へ充実の活動計画(塩化ビニル管・継手協会)ー

◎インフォメーション2

「抗菌加工製品」って何？

ー世界をリードする日本の「KOHKIN」。安全性、品質向上への取り組みも着ター

◎塩ビ最前線

進化系！(株)ミワックスの技術力

ー塩ビ製透明デスクマットのパイオニア。旺盛な探求心で次々に「世界初」の開発ー

◎広報だより

- ・「下水道展 2015 東京」で塩ビ管の耐震性、長寿命などをアピール
- ・中央区エコ祭りでプラレンジャー参上！
- ・「PVC Design Award 2015」キックオフ！

掲載記事をいくつかご紹介いたします。

「トップニュース」は(株)タケエイのタイルカーペット・リサイクルの稼働を紹介しています。6つのローターで三段階に分けてタイルカーペットの表面の繊維層を切り取っていく方法です。この方法は劣化した繊維層でも高い精度で処理することが出来、かつ高速で繊維層と塩ビのバックング層を分離出来ます。

今後、東京オリンピック・パラリンピック開催に向けてオフィス向けのタイルカーペットの張替え需要が増えることが予想される中での新たな取組みが期待されます。

「さきがけびとにきく」はプラスチック造形作家の当銀さんをインタビューしました。当銀さんは台湾の吸管工芸を独自にアレンジしたストローでエビ・マウス・カエルなど様々な形のアート作品を生み出したオリジネーターです。

最近ではプラスチックみらい研究会に参画し、5種類の汎用プラスチックをストローで擬人化したプラレンジャーというキャラクターを製作、子どもたちにそれぞれの樹脂の特徴などをわかりやすく説明しプラスチックの情報発信を続けています。

「塩ビ最前線」では塩ビの透明デスクマットを日本で初めて開発したミワックス社を紹介しました。昭和40年に発売した塩ビ透明デスクマット、昭和55年に開発し販売を開始したカッティングマット(カッターナイフ用のマット)の開発秘話を語っていただきました。

硬質シートを軟質シートで挟む三層構造でそのためカッターの刃がしっかり受け止める独自のアイデアが、今ではどのカッティングマットにも採用される製法になっています。

『PVCニュース』は[JPECのホームページ](#)から、最新号、バックナンバー共にご覧いただけます。

ご講読を希望される方は、[こちら](#)まで、送付先・TEL・希望部数などをご連絡下さい。

■ 随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(9)

木下 清隆

<前回とのつながり>

前回までに天照大神と伊勢神宮との関係を述べてきたが、今回からは、これまでに得られた知見を本に、櫛田神社に祀られている祭神の問題を検討することにする。

第二章 伊勢の櫛田神社

櫛田神社は現在分かっているだけで全国に四ヶ所ある。伊勢、博多、肥前神埼及び越中射水である。伊勢と博多では大幡主命おおはたぬしのみことが祀られ、神埼と射水では櫛稻田姫・素戔嗚尊かみざき いみずが祀られている。同じ社名の櫛田神社なのに、なぜ祭神が異なるのかといった問題はあるが、それは後で述べることにする。ここでの話の中心は大幡主命と櫛田神社の関係なので、先ず、伊勢の櫛田神社に焦点を当て、関連する諸問題を検討することにしたい。



伊勢 櫛田神社

1. 櫛田神社の祭神

櫛田神社の祭神である大幡主命は『豊受太神宮禰宜補任次第』によれば、伊勢度会氏の祖先神である天日別命の五世の孫とされている。更に『伊勢国風土記』逸文に依れば、この天日別命は天御中主尊の十二世の孫となっている。前述したように大幡主命は伊勢神宮の初代大神主であり度会氏の実質的な祖とされている。この大幡主命の本来の名は大若子命とされており、大幡主命は史料上では別名となっている。



櫛田川（櫛田神社の側を流れる）

（注：ここに出てくる『風土記』とは、和銅六年（七一三）の官命により諸国で編述された報告文書のこと。内容については、・地名に好字をつける・産物の記録・土地の肥沃状態・山川等の名称の由来・古老の伝承等と指示されたが、内容、完成時期等は国によりまちまちであったとされている。）

何故、大若子命が大幡主なる別名を持つのかについては、『豊受太神宮禰宜補任次第』にその由来が記されているが、貝原益軒が『筑前国続風土記』にその内容を分かりやすい文章に訳しているのので、以下に引用する。

「垂仁天皇御宇越国の凶賊阿彦と云者を平げにまかれとて、大若子命に勅して標剣を賜ふ。即幡を挙て輒く退治せしかば、其功を賞して大幡主命と名を給へり」

とある。垂仁天皇の時代に越国の賊を平定するようにと命じられ、剣を賜った大若子命は幡を掲げて攻め、これを平らげた。その功績により大幡主命の名を賜った、といった内容である。何故、このような命名譚が作られたのかは分らないが、何か史実を反映しているのかもしれない。なお、この『補任次第』とは度会氏が外宮の禰宜を代々務めてきた記録で、十三世紀初頭頃までの歴代禰宜の人名が列記されている。この『豊受太神宮禰宜補任次第』は大若子命と大幡主命の関係を説明する文献としては、最も古いものようである。本考では、一応両者を同一人物と見なし、大幡主命と大若子命を適宜に使用することにするが、今暫くは大若子命を用いることにする。



大間国生神社

この大若子命が度会氏の祖であり、外宮をその祖神である天日別命を祀る霊地とするなら、この命はゆかりの深い者として外宮近辺の何処かに祀られていなければならない。神社には祭神だけでなく、その神社・祭神にゆかりのある神や人物が摂社・末社に祀られることが通例だからである。そして、予想通りにこの命を祀る外宮の摂社はある。それを大間国生神社という。外宮に近い山田上り口駅のすぐ近くにその社はある。更にこの神社とは別に、伊勢の多気（現在はタキと読まれている）郡櫛田の地にあった櫛田神社にも、大若子命が祀られていたとの伝承がある。

大間国生神社に大若子命が祀られていることは、当然のことと云えるが、櫛田神社にも祀られていたことは決して自明のことではない。何故、櫛田神社に大若子命が祀られていたのか、その理由については判らないにしても、本当に大若子命なのかについては、論証する必要がある。もし、この両社の間に何か文書でも残っていれば話は簡単であるが、そのようなものは何も残されていない。何しろ、この櫛田神社は中世においてすっかり衰微

し他の神社に合祀されてしまい、その記録が失われているからである。この櫛田神社は昭和八年に再建されたとされているが、正式に宗教法人として登記されたのは昭和六十三年四月となっている。そして祭神としては大若子命おおわくこが登録されている。何故、大若子命なのかについて、社前の由緒碑に、

「皇女 倭姫やまとひめが皇祖天照大神御鎮座の地を求められて当地にお成りの節、御案役として顕著なお働きをされた大若子命を、当地の主護神としてお祀りする様御下命になりました」

とある。この由緒碑の出典が『倭姫命世記やまとひめのみことせいき』にあることは明らかである。『倭姫命世記』については後で説明するが、これに関連する世記の記述箇所は、

「大若子命ももしに汝の国名は何んぞと問い給う。白く、百張蘇我ももはりそがの国、五百枝刺竹田いほえさすたけたの国と白き。其処に御櫛を落とし給き。其処を櫛田と号し給い、櫛田社を定め賜き」

となっている。この内容は、倭姫命が大若子命に「貴方の国の名は何と言いますか」と尋ねた。これに対して、命は、「百張蘇我ももはりそがの国、五百枝刺竹田いほえさすたけたの国と申します」と答えた。倭姫命はそこに櫛を落として櫛田と名付け、その地に櫛田社を定め賜うた、といったものである。ここに出てくる倭姫命とは、先の垂仁紀で天照大神を伊勢まで案内した倭姫のことである。

この文の中でよく分からないのが「定」の意味である。これを明らかにするためには、この文が対象としている時代に、櫛田社なるものが存在していたのかが問題となる。未だ存在していなければ、「定」は新しく社を創建する意味になる。これに対し、櫛田社なる社が既に存在していたとすれば、「定」はこれを認定する意味になってくる。「定」の意味に建設まで含ませるのには無理があり、従って、櫛田社は既に存在しており、これを認定して『倭姫命世記』に記録したというのが、その意味であろう。

このように解釈して、これと先の「由緒碑」の内容とを合わせると、世記が対象としている時代に櫛田社は既に存在しており、その社に当地の守護神として大若子命を祀るようにと倭姫命が命じた、と繋がることとなる。しかし、これは文章として矛盾している。現に生きて倭姫と対話している相手を、姫が祀るように指示することなど有り得ないからである。更にこのような指示をする文は『倭姫命世記』の何処にも書かれていない。では何故、由緒碑はそこまで踏み込んだ内容にしたのだろうか。

伊勢の櫛田神社の祭神は昔から大若子命として伝承されてきている。ところがこれを裏付ける史料は何も無い。唯一頼みに出来るのは『倭姫命世記』である。しかし、これにも明確なことは記されていない。そこで已む無く碑文にあるような、もっともらしい由緒書が作られた、といったことが想定される。このように、ここに引用した程度の世記の内容からだけでは、櫛田神社の祭神を由緒碑にあるように大若子命とすることは出来ない。しかし、櫛田神社の祭神は本当に大若子命なのか、を解く鍵はこの『倭姫命世記』くらいしか残されていない。これが最も有力な史料なのである。そこで次項で、改めてこの『倭姫命世記』を検討することにする。更にそのあとで、も一つの有力な史料についても検討をする。これらの史料は、ここでの問題を直接的に証明出来る文献ではなく、明快な回答は得られないが、ある程度のことは明らかとなって来よう。

(つづく)

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いです。>> [\(筆者\)](#)

「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

■ 編集後記

先日東京都立川市の昭和記念公園を散策して、サギソウを觀賞してきました。その花の形が翼を広げたシラサギを連想することからその名前がつけられたそうです。まさに可憐な純白の花をつけていました。ちょうど近くの池ではその由来となった鷺が飛んでいき、ちょっとした初秋の風情を感じることができました。

ところで、サギソウは世田谷区や姫路市ではシンボル花になっていて、マンホールや側溝の蓋にも描かれていますので、今度気をつけて探してみようと思っています。(UCH)



■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp
